

平成30年度第1回焼津市総合教育会議議事録(概要)

1 開催日時 平成30年6月26日(火) 午後3時03分から午後4時40分まで

2 会場 焼津市役所6階 603号室

3 出席者

(構成員)

市長 中野弘道

焼津市教育委員会

教育長 佐藤美代志

教育委員 大石智之 北川利男 奥川重子 山竹葉子

(関係者)

副市長 下山晃司

社会教育委員長 渡邊徹

政策企画課総務担当主幹 山下浩一

(事務局)

事務局長 中野俊光、こども未来部長 見原照久、交流推進部長 飯塚真也

教育総務課長 橋本敏明、学校教育課長 近藤和人、社会教育課長 富田明裕

図書課長 志賀美之

文化・交流課長 渡辺晃子、スポーツ課長 松永年史

学校教育課主席指導主事 岩田良祐

教育総務課総務担当主幹 日下部充

4 協議事項

(1) (仮称)焼津市文化振興計画策定について

(2) (仮称)スポーツ振興計画策定について

(3) 教育センター事業について

(4) 図書サービスの充実について

(5) その他

5 議事内容

別紙のとおり

<p>中野市長</p>	<p>【午後 3 時 03 分開会】</p> <p>(次第 1 開会)</p> <p>(次第 2 市長あいさつ)</p> <p>・この総合教育会議は、教育委員会と行政が教育施策の方向性を一致させ、より良い教育環境を目指すことを目的としている。昨年度は、学校の抱える課題の解消に向けて、設置した教育センター事業について、更に、スポーツ振興や図書サービスの充実についてご協議いただき、その外の協議事項についても、様々なご意見をいただいた。本年度は、引き続き、教育センター事業、スポーツ振興や図書サービスの充実についてご協議いただくとともに、新たに、焼津市文化振興計画策定についてもご協議いただきたいと考えている。また、本年度が初年度となる「第 6 次焼津市総合計画」では、「子どもがいきいきと輝きみんなで教育・子育てを支えるまちづくり」を政策目標として掲げ、次の世代を担う子どもたちが夢や希望を持ち、いきいきと成長できるよう焼津市として、教育・学術・文化の振興に取り組んで行きたいと考えている。</p> <p>・今後とも総合教育会議という席で、これまで以上に教育委員会と市が連携・協力し、焼津の子どもたちが心身ともに元気いっばいに育つように、より良い焼津の教育の方向性を見出すことができるよう、積極的に取り組んで行きたいと考えているので、ご指導・ご鞭撻をお願いする。</p>
<p>事務局</p>	<p>(次第 3 協議事項)</p> <p>(1) (仮称) 焼津市文化振興計画策定について</p> <p>(配付資料により説明)</p> <p>○第 6 次焼津市総合計画の政策・施策の体系の中で、交流推進部の所管について説明。</p> <p>○策定の趣旨</p> <p>・文化芸術は人々の生活に安らぎや心の癒しをもたらし、地域の文化は郷土への誇りや愛着の心を育てる。また、子どものころから質の高い文化芸術に触れることは、子どもたちの感性や創造性を育て、豊かな文化力の基礎を育てる。さらに、文化芸術活動の輪を広げ、継続することは、人と人の結びつきを強め、地域の絆を深めるとともに、観光や教育など様々な分野と連携することにより、地域の活力を向上させ、地域経済の活性化にもつながる。本市においても、歴史ある都市として、心豊かな市民生活を実現するとともに、都市の魅力を高めていくため、まち全体で「文化」の振興を図り、「文化」の力をまちづくりに活かしていくことが必要であり、本計画において本市の文化振興にあたっての基本的な考え方や方向性を示す指針とするため策定するものである。</p> <p>○策定の背景</p>

・本計画は、国の文化芸術基本法の第4条において「地方公共団体の責務」として策定及び実施するものとされている“地域の特性に応じた施策”を計画的に実施するために策定するものである。また、本計画は第6次総合計画で掲げる芸術文化部門に関する行政計画であり、総合計画と整合性を図るとともに、産業・都市計画・市民生活・教育などの部門と密接な関係があるため、部門別の各計画との整合性も図り策定する。そして、この計画が、本市の文化振興の方向性を提示し、さまざまな主体の連携を促すなど、市民の文化活動の道しるべとしても役立つことをめざす。

・「文化芸術振興基本法」は平成29年6月に改正され、文化芸術そのものの振興に加え、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等文化芸術に関連する分野の施策についても法律の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を、文化芸術の更なる継承、発展及び創造に活用することが盛り込まれ、法律名も「文化芸術基本法」と改められている。静岡県においても平成18年の「静岡県文化振興基本条例」をはじめ、平成20年に「静岡県文化振興基本計画」が制定された。

・国の第4次基本方針では文化芸術を「地方創生の起爆剤」と位置付けており、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会において「文化力プロジェクト」の展開が検討されるなど、文化力は文化政策の基軸となるキーワードとなっている。

○計画の名称

・(仮称)「焼津市文化振興計画」とする。

○文化の定義

・「文化」とは、文化芸術基本法における芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、生活文化、文化財を主な範囲と考える。ただし、文化という言葉が、生活様式、伝統、人の精神的活動等さまざまな意味で利用されていることから関連分野についても「文化」に含める。

○計画期間

・概ね10年後を見据えた文化施策の方針を構築するものとする。ただし、今後の社会情勢の変化や各種計画の変更が生じた際には、必要に応じて見直しの検討を行う。

○策定体制

・庁内策定組織、市民参加組織、総合教育会議となる。

・庁内の関係課による「庁内検討会」、副市長・教育長・部局長を中心とする「施策調整会議」を通して市長にかけていく。

・学識経験者、経済団体、観光団体、文化会館管理者、文化団体、教育関係者からなる策定委員会を設置。

・市民の意見を求めるため、市民意識調査・関係団体等へのヒアリング・市議会全員協議会・パブリックコメント・広報やいづでPRを計画している。

奥川委員	<p>・市民の意見・関係団体の意見を聞きながら、総合教育会議・施策調整会議の中でまとめ、市長が最終決定する策定体制。</p> <p>○スケジュール</p> <p>・庁内検討会（随時開催）、策定委員会（6月・9月下旬）、骨組みの作成・各種団体へのアンケート・インタビュー（7・8月、9月まとめ）、総合教育会議（10月30日）、パブリックコメント（1月中旬）、3月末にまとめて冊子として報告する。</p> <p>・アンケートの対象、人数、展開（方法）について説明をお願いしたい。</p>
飯塚交流推進部長	<p>・人数は1,500人を予定している。内容は文化振興計画の基本理念、文化政策に求めるもの、文化的なまちづくりについてが主なものになっている。それを基に焼津市の問題点・課題等を拾い、解決策を策定委員会で議論をいただき、文化振興に係わる方向性・指針を示して行きたいと考えている。また、アンケートの他にインタビューを文化関係団体にして考えを伺いたい。</p>
中野市長	<p>・1,500人の対象は無作為ということでもいいか。</p>
飯塚交流推進部長	<p>・通常行うアンケート調査と違うように考えていて、対象を子どもと親御さん・高校生・福祉大・保育園・放課後児童クラブ等のこれから次世代を担う子どもたちを中心にアンケートを取りたいと考えている。</p>
北川委員	<p>・地域の文化は郷土への誇りや愛着の心を育て、地域の活力を向上させるということが策定の趣旨にもりこまれているが、全くその通りだと思ふし重要なことだと思ふ。文化と聞いて浮かぶ場所が金沢です。金沢の伝統文化は市民生活の中にごく自然に根付いている。文化振興は、他から人を呼び込むことが出来て波及効果が高いので力を入れてほしい。ただ、文化は幅広いのでどの分野をターゲットにするか計画策定後に検討し情報発信してほしい。文化振興のアプローチとしてフィルムコミッションの力を借りて映画を誘致して、焼津の優れた文化を取り上げてもらい、市民の関心・理解を深め、二の矢・三の矢を繰り出してほしい。</p>
佐藤教育長	<p>・策定の趣旨に、「子どものころから質の高い文化芸術に触れることは、子どもたちの感性や創造性を育て、豊かな文化力の基礎を育てます。」とあるが、焼津は二つの文化施設があり、他の市町に比べて恵まれているので、それを生かして、焼津市民のために質の高い文化芸術を提供してもらいたい。</p>
大石委員	<p>・国も文化芸術を「地方創生の起爆剤」と位置付けているくらいなので、文化</p>

山竹委員	<p>振興計画を作るにあたって、焼津らしさ・焼津ならではのものを掘り起こして、それを温めて発展させて行くような計画がつけられればという感想を持っている。また、文化芸術振興を文化芸術の中だけで考えないで、産業振興・人材育成など文化芸術の振興によって、その周辺の分野にも波及するような効果的な施策を考慮しながら文化振興計画を策定していただければと感じた。</p> <p>・パブリックコメントについてですが、行うタイミングと出された意見が施策の中に反映されるということによろしいか。その場合どういう過程を取るのか教えてほしい。</p>
飯塚交流推進部長	<p>・パブリックコメントについては、1月中旬から2月中旬の約1か月の意見募集ということで考えている。市のパブリックコメントのやり方は、案を作成して、市民の皆様に意見を募集する。その後、意見への対応等をホームページに掲載し、まとめたものを策定委員会、施策調整会議を経て市長決定という形になる。</p>
山竹委員	<p>・意見が多ければ、最後慌ただしいのかと思うが。</p>
飯塚交流推進部長	<p>・意見に対する対応案をまとめる期間は想定しているので、年度末でバタバタしないようにする。</p>
奥川委員	<p>・資料を見たとき、10年後の子どもたちはどう関わるのか疑問でした。先ほどのアンケート調査の対象者の話を聞いて、そこまで考えていただいていたが良かったと思った。</p>
中野市長	<p>・文化の定義の中で、現在ある焼津の文化があるので、スポーツ文化・産業文化・伝承的文化など今ある文化が計画に含まれているのが分かるよう工夫して焼津らしいものを入れていただきたいと委員の意見かと思うので、検討していただきたい。焼津は文化力が高く、スポーツ団体・文化団体が多いと近隣からお褒めをいただいている。産業はもちろん、焼津独特のものがあるので、それを計画に入れていただければというご意見だったと思う。</p>
事務局	<p>(2) (仮称) スポーツ振興計画策定について (当日配付資料により説明)</p> <p>○計画策定の経緯と趣旨</p> <p>・本市では、「スポーツ都市宣言」を掲げ、より多くの市民がスポーツに親しむことができる機会と環境づくりに積極的に取り組み、スポーツを通じた健康で明るく豊かなまちづくりを推進してきた。国においては、平成23年6月</p>

に「スポーツ基本法」を施行し、同法の中でスポーツに関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務が規定された。これを受け、文部科学省では、平成24年3月に「スポーツ基本計画」を策定、静岡県においても、平成26年7月に「静岡県スポーツ推進計画」を定めた。国のスポーツ基本計画では、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに、関係部局、団体が一体となって取り組むことが期待されている。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の国際競技大会を好機として、競技力の強化を行うとともに、スポーツを「する」「ささえる」「みる」人々を拡大し、スポーツと他分野との連携・協働を推進するとともに全ての人々がスポーツで輝き、活力ある社会を創るということが期待されている。本市では、平成30年度を初年度とする「第6次焼津市総合計画」を策定し、将来像である「やさしさ 愛しさ いいもの「いっぱい」世界へ広げる 水産文化都市 Y A I Z U」の実現を目指している。この総合計画において、スポーツ振興は「観光・文化・産業」政策（産業の発展と交流でにぎわうまちづくりの一つの施策として位置付けられ、今後も計画的、かつ総合的なスポーツの振興を図るとともに交流人口の拡大に積極的に取り組んでいくこととし、その実現のために「焼津市スポーツ振興計画」を策定するものである。

○計画の性格（位置づけ）

- ・スポーツ基本法（10条）に基づき、本市のスポーツ振興の基本的な考え方や方向性を示す計画であり、国の「スポーツ基本計画」を参考とし、また、県のスポーツ推進計画と整合をとり策定する。
- ・「第6次焼津市総合計画」と整合を図り、その政策・施策を実現するため策定するスポーツ振興に関する個別計画である。
- ・焼津市、スポーツ関係団体、地域、家庭など協働し、社会全体でスポーツ推進に取り組む方向性を示すものである。

○計画期間

- ・5年間とする。

○今後のスケジュール

- ・現在、素案の作成、9月パブリックコメント、10月に案の決定を予定している。

（配付資料により説明）

○第6次焼津市総合計画における課題及び成果指標

- ・課題として、スポーツに参加しやすくなる環境づくり・スポーツ交流を通じた交流人口の増加・スポーツ施設の整備・改修及び機能分担を挙げる。
- ・成果指標として、人口に対するスポーツ施設の利用者比率・東海大会以上の大会と強化合宿の合計開催回数を設定。

○焼津市スポーツ振興計画（案）の概要

- ・第6次焼津市総合計画に掲げる課題を解決するため、スポーツ基本法に基づ

	<p>く「焼津市スポーツ振興計画」を策定し、スポーツを通じた交流人口の拡大を図り、「市民がスポーツを楽しんでいる」姿を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育スポーツ分野における位置付けとして、学校体育、社会体育と分類する。主に、「地域スポーツ・市民スポーツ・プロ、アマスポーツ」の中で、「スポーツをする・スポーツを見る・選手を育てる」の3つの視点を定める。 <p>○スポーツ振興計画（案）の骨子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをする視点では、子どもがスポーツに取り組むきっかけづくり、手軽にスポーツを行えるような環境づくり、市民主導型の地域スポーツの環境づくり、ライフスタイルに応じたスポーツ環境づくりを掲げる。 ・スポーツを見る視点では、国内代表クラスを見る・触れ合う環境づくり、海外スポーツ選手を見る・触れ合う環境づくり、焼津を拠点とするプロ・アマスポーツ選手を見る・触れ合う環境づくりを掲げる。 ・選手を育てる視点では、指導者等の人材育成を掲げる。 ・スポーツ施設の機能分担、計画的整備を位置付ける。
大石委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興計画（案）の骨子が分かりやすくなっていていいと思う。その中で、子どもたちが出来るだけ早い時期に適性のあるスポーツにめぐり合えた子どもは幸せだと思うが、いろいろな制約があり難しいと思う。そこで、適性の判断・才能の発掘をするようなプログラム・仕組みがあればいいと思う。選手を育てる中にそういうものも含めて考えていただければありがたい。 ・スポーツ振興の中に交流人口の拡大が大きなテーマとして掲げられていいことだと思う。スポーツをするにしても、見るにしても人格形成の場、学ぶ場だと思っている。スポーツ振興計画の中で、人間形成・人格形成というものを大きな柱として掲げていただきたいと思う。
飯塚交流推進部長	<ul style="list-style-type: none"> ・人格形成・人間形成の場として調べて、仕組みについて検討させていただく。
佐藤教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高校の部活のガイドラインが国から示された。個人的にはもう一步踏み込んだものを期待していた。指導者に一般の方が入って、大会等に引率できるというものを期待したが真新しいものはなかった。学校体育と社会体育の関係になるが、教員でなくても指導・引率ができるというものが出ると、学校部活でやりにくい相撲・レスリングなどは、地域部活という形になり、スポーツの世界が変わってくると思い楽しみにしている。学校の体制変更、地元の方へお願いをし、融合を取りながら運動を強く育てる形が取れば、新しい動きが出てくるかなと感じている。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先程、大石委員からスポーツは人格形成に役立つとの話があったが、私は、

	<p>週に4回、サッカー少年団の練習を見に行っていて、学年が上がるごとに、挨拶が出来るし、忍耐力、相手を思う気持ちが出てると感じ、スポーツは人格形成だと思った。また、スポーツは心を熱くして盛り上げることができ、人々を一つにすることができる。まさに、今、ロシアで開催されているワールドカップがそうである。好きなスポーツをすることによって、仲間づくり、生きがいづくり、健康寿命を伸ばすこともでき、素晴らしいものだと思う。</p> <p>資料7ページの3つの視点の中で、スポーツをするが最も重要で焼津市全体のスポーツの底上げに繋がると思う。また、3人制バスケットボールの盛り上がりで、交流人口増加に期待している。あと、障害者スポーツ、マイナースポーツにも目を向けられるような施策も検討していただきたい。</p>
奥川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・当日配布の参考資料のスポーツを「みる」のひらがなと資料7ページのスポーツを「見る」の漢字は意味があるのか。参考資料の「みる」のひらがなには意味があるように思うが。
飯塚交流推進部長	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料は、国の掲げた「スポーツ基本計画」の記載で、資料7ページはそれを参考に記載したものである。ひらがな記載については調べさせていただく。
山竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをするについて、子どもたちの場合スポーツができるだけの環境が必要だと思う。各スポーツで力のある選手を育成するにはそれなりの費用が掛かると思う。個別に負担するのは難しい面もあると思うが、出来るだけ家庭環境、社会環境の良くない子どもたちも参加できるようにどこかで支援が出来ればと思う。
事務局	<p>(3) 教育センター事業について (配付資料により説明)</p> <p>○教師力強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手講師を対象に、学校訪問による指導を4月下旬より開始した。授業改善に向けた指導、学級経営上の指導、生徒指導上の指導などを行う。研修対象の講師は5月現在24人である。(拡充事業) ・若手講師を対象に年2回、一斉研修として実施する。臨時的任用教員も含む。(拡充事業) ・新規事業として、教職経験2年目教員パワーアップ研修、校長の推薦または教員本人の希望により、訪問による授業参観・事後指導や相談等を実施する。 <p>○授業・学習支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を希望する学校に対して、退職教員等による授業中の児童・生徒のサポートを行う。 ・学習支援として、放課後に教室を利用した退職教員等による学習支援を行い、

	<p>基礎学力の向上を図る、ステップアップ教室を実施する。</p> <p>対象校 焼津南小学校、港小学校、黒石小学校、大井川東小学校 対象児童 焼津南小、大井川東小：4年生以上の希望者 各24人 港小、黒石小：3年生の希望者 各20人 実施回数 月2回 大井川東小：月曜日 焼津南小：水曜日 港小：木曜日 黒石小：金曜日</p> <p>5月初旬に児童を募集し、6月6日（水）焼津南小から順次開始する。前期（6月から10月）後期（11月～2月）に分けて参加者を募集し、各8回教室を実施する。学習支援内容は算数の宿題支援、独自の教材による学習内容定着への支援が中心であるが、前後期にそれぞれ1回、理科講座を実施し、参加児童の理数への興味・関心を広げたい。ディスカバリーパーク焼津との連携により実施する。（拡充事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業として、サマーステップアップ教室の実施（夏季休業中に実施） <p>小学校については、焼津公民館で8月8、9日、大井川公民館で7月26、27日で実施する。各会場でそれぞれ対象校にチラシを配付し、3～6年生30人程度を募集する。内容は1日目に夏休みの宿題支援、2日目は理科実験講座と自由研究相談、理科講座はディスカバリーパーク焼津と連携して実施する。</p> <p>中学校については、大富中学校をモデル校として、8月2、3日で実施する。学習支援ボランティアを派遣し、教科を限定（数学・英語・理科自由研究相談）して実施する。理科自由研究相談に関しては、ディスカバリーパーク焼津と連携して実施する。このモデル実施の検証を行い、中学校における学習支援の効果的なあり方を検討する。</p> <p>○外国語指導助手配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTを増員して拡充している。小学校は、新学習指導要領への移行期を迎える本年度、3・4年生を市雇用小学校ALT、5・6年生には業務委託のALT6名を配置して実施する。 <p>中学生は、専任の業務委託ALTを3名配置し各校を巡回する。</p> <p>・サマーステップアップ教室は3年生から6年生30人程度の募集となっているが、応募人数はこの程度と想定しているのか、また応募人数が多かった場合どの様にこの人数に収めるのか聞きたい。</p> <p>・30人を想定している。募集より多く出て来た場合は、抽選で30人選ぶと現時点では考えている。</p> <p>・教育センター事業がこのように充実してきたことにありがたく思う。現場からも感謝の言葉が届いていることと思う。中心になって運営して下さる主席あたりが本当に苦労されているのが目に見える感じがする。教師力強化事業、いずれも大事だが、特に臨時的任用教員に目を向けてくれたことが、焼津市</p>
山竹委員	
近藤学校教育課長	
奥川委員	

	<p>の教育現場に大きな力になると思う。学校訪問をしていると産休・育休等いろいろな意味での講師が多いと感じる。臨時的任用教員のレベルアップが焼津市の教育のレベルアップに繋がっていると思うので、ありがたい事です。</p> <p>授業学習支援事業のステップアップ教室を4校に拡大したことは、漠然とですが想像できます。本当にありがたいことです。ただ、今後考えていただきたいのは、3年生・4年生では遅いと思います。すでに、1年生・2年生の中に授業が本当に苦痛なんだろうなという子が見受けられます。担任は、苦慮していると思うが、対象校の拡大と共に学年を下からやることも考えていただきたい。今日、報告いただいたこと全てにありがたいと感じている。</p>
近藤学校教育課長	<p>・教師力強化事業ですが、臨時的任用教員が非常に増えている状況の中で、そこに手を入れて行こうと始めた事業である。授業力向上研修会は、昨年度1回のものを本年度2回開催する。若手講師を対象した授業力向上研修は、昨年度から始めて、各学校から感謝の言葉をいただいている。本年度新たに始めた事業が、教職員経験2年目の教員を対象に研修をやって行こうというものである。学習支援については、確かに1年生・2年生への支援もやって行きたいと考えているが、放課後にやるというのは難しいこともあるので、別の形で支援を考えて行きたい。</p>
中野事務局長	<p>・授業支援ではないが、1・2年生を対象にクラスに馴染めるよう支援する事業も行っている。</p>
佐藤教育長	<p>・焼津市は22校で、支援員106名が学級に入って直接子どもに指導している。支援員についても、研修の系統を作って講師と同じように指導のノウハウを高める研修会をやっていかなければならないと思う。そうすることが、焼津市の教育力の維持・向上に繋がると思う。ただ、心配なのが、県から市で雇う講師枠をもらっているが、講師が見つからない状況である。市だけではどうしようもないので、教育長会等、県・国に訴えていかなければならないと感じている。</p>
北川委員	<p>・拡充事業、新規事業が数多くあって頼もしいし嬉しい。確実に若手教師や子どものレベルアップに繋がると思う。それぞれの事業効果の検証にも力を入れていただきたい。</p>
大石委員	<p>・ステップアップ教室が4校に拡充され、成果が上がっている事業はたくさん対象にやってほしい希望があるが、来年度以降どこまで広げられるのか、もしくは何が課題としてあるのか聞きたい。</p>

近藤学校教育課長	<p>・一番は指導員がいない。指導員確保に手を尽くしている。来年度以降、出来る限り広げて行きたいと考えている。学校数は広げて行きながらも、現状の形の中で、最終的には市内全校が対象となるよう、できるだけ多くの子たちに学習支援できるよう工夫して考えて行きたい。</p>
山竹委員	<p>・子どもたちに対する支援で人数を聞いたのは、希望する子と希望すらしらない子とあるんだろうと思うことと、分からない子が学校にいるのは苦痛なんだろうと思う。個別対応はしきれないと思うが、サポートをする時に自ら希望しない子を引き出せる方法があればいいと思う。</p>
中野市長	<p>・市としても段階はあるが、教育センター事業を支援する体制、予算面も含め付けて行きたい。ご意見をいただいて、さらに進化して行きたいと思うのでご指導をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(4) 図書サービスの充実について (配付資料により説明)</p> <p>・施策の方針として、図書館において、誰もが学習できる環境づくりに取り組む。学習拠点として、生涯学習施設の整備を推進する。</p> <p>・平成 29 年度 of 取組状況は、視覚障害者情報ネットワーク（サピエ）に加盟し、障害のある方への資料提供サービス（アシストサービス）の拡充、認知症にやさしい図書館づくり（認知症サポーター養成講座受講・開催）、ターントクルこども館基本構想策定への参画を行った。</p> <p>・平成 30 年度の主な事業は、静岡新聞データベース plus 日経テレコンの導入、公民館図書室蔵書の充実と資料配送による利用者の利便性の向上、図書館システムの更新準備を重点施策として、図書サービスの充実に向けて取り組んでいく。</p> <p>・主な事業の詳細は、授乳室等の整備、静岡県のかかちゃん駅設置事業の補助を受け、平成 30 年 3 月末に焼津図書館に授乳室を整備、大井川図書館には男女トイレ個室にそれぞれベビーチェアを設置。</p> <p>ターントクルこども館基本構想策定への参画とともに、子育て支援センター「子育てサポートルーム」でのおはなし会へ司書を派遣し、図書館職員が未就園児とその保護者と関わる機会を増やす。</p> <p>「静岡新聞データベース plus 日経テレコン」を焼津図書館へ導入して、データベースから瞬時の記事検索と関連記事のチェックが可能になった。</p> <p>公民館図書室蔵書の充実、和田地域交流センターの整備に伴い、新和田公民館図書室の蔵書の買換えを行った。蔵書数は 3,454 冊から 4,044 冊へ増加。</p> <p>福祉施設等への団体貸出し事業を強化、福祉施設に 1 回につき 100 冊まで、貸</p>

	<p>出期間は2か月間、配送は図書館で行う。現在1施設へ貸出中。</p>
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・取組状況詳細から、障害のある方や幼児の保護者に配慮した施策を実施していることが改めてよくわかりました。静岡新聞に癲癇に関する連載が掲載されていた。記事を読んで厳しい状況にあると感じた。癲癇を含めて、いろいろな偏見があると思う。偏見の解消・理解を深めるための取組は福祉サイドになると思うが、図書館でできる範囲内で本の紹介や研修会等を企画する場合はあれば取り組んでいただきたい。今後とも、子育て支援については引き続きお願いしたい。
中野事務局長	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉関連、子育て関係、それぞれ情報提供を受けながら研究してまいりたい。
奥川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡新聞データベース plus 日経テレコン」は学校で検索できるのか。
中野事務局長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校事務は可能かもしれないが、生徒向けには困難かと思う。次回までに調べておく。
中野市長	<p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議事項は次回、具体的な取組などを事務局から提示してもらうことになる。
事務局	<p>(次第4 連絡事項)</p> <p>次回開催予定時期を説明 (配付資料 資料5により説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の総合教育会議は3回を予定している。 ・次回は10月30日(火)午後3時から開催し、協議事項の中間報告を行う。 ・第3回目の会議は2月19日を計画している。 <p>(次第5 閉会)</p> <p>【午後4時40分閉会】</p>